

### 議員研修会に参加 市政調査会

〔研修日〕

平成28年11月22日

〔研修箇所〕

あすもあ遠野

盛岡グランドホテル

〔参加議員〕  
16名

市政調査会の11月例会として総会を開催し、岩手県市議会議員研修会に参加した。総会では、平成28年度事業報告および収支決算、平成29年度事業計画および収支予算について審議した。（会



岩手県内の議員が一堂に会す研修会

計年度は11月～翌年10月）

平成28年度は特に、台風10号による被害状況を調査するため、9月に臨時会を開催して現地調査を行ったことが報告された。

市議会議員研修会では、「ラグビーワールドカップ2019岩手県・釜石市開催について」と題し、県ラグビーフットボール協会の白根敬介会長が講演。大会は「世界とつなぐ・市民をつなぐ・安心をつなぐ・未来へつなぐ」の4つを基本に開催することを聞いた。

次に、「どうなる？ 今後の日本政治」と題し、政治評論家の有馬晴海氏が講演。アメリカ大統領の交代による日本への影響、世界における日本の立場、少子高齢化における自治体の対応など、興味深い内容であった。

### 議会改革推進特別委員会から報告

平成28年6月に立ち上がった議会改革推進特別委員会は12月14日で10回目の開催となった。

これまで扱ったテーマは、議会の会議に資料等を見られるタブレット端末の導入、議員による条例の提案、議案の修正等、議員間討議、議案の調査、通年議会、定例会日程、政務活動費等でした。

12月1日には遠野市議会議員研修会を開催した。講師は青森中央学院大学経営法学部准教授の佐藤淳氏で「議会改革第2ステージに向けて」と題して全議員と市当局担当者で研修をした。とても参考になる研修だった。以上を議員全員協議会に報告し、今後タブレット



議会改革に向け一歩前進

〔議会改革推進

特別委員会〕

- 委員長 荒川栄悦
- 副委員長 浅沼幸雄
- 委員 小林立栄
- 菊池美也
- 萩野幸弘
- 菊池由紀夫
- 佐々木大三郎
- 細川幸男

## ふるさと再生を目指し会社設立 清河の取り組みに学ぶ

### 総務常任委員会

〔視察日〕

平成28年

10月25日～26日

〔視察研修先〕

広島県三次市

清河自治振興会

〔参加議員〕

菊池由紀夫

佐々木大三郎

瀧本孝一

浅沼幸雄

安部重幸

新田勝見

〔同行職員〕

市民センター市民協

働課長 小向浩人

■清河自治振興会の

取り組み

清河自治振興会のある三次市清河町は、人口約500人、市内19の自治組織で最も人口の少ない地域である。自分たちの住む町を自分という主体的な取り組みが評価されている。その活動の源となっているのは、(有)ブルーリバーの設立である。地域活性化のために小学校を残そうと、9人の住民が、1人100万円を出資し会社を立ち上げた。「ふるさと再生」の鍵は後継者の育成。小さな町の大切な学校の存続を願い、最初に取り組んだのは、住宅を建て子育て世代を誘致しようという取



(有)ブルーリバーの新築した住宅の前で

り組み。子どもは必ず清河小学校に入学させることを条件にしている。空き家についても、(有)ブルーリバーで修理して安価で貸す。当初は3棟だった住宅も今や11棟に移住世帯が入居し、近くにマイホームを建設した世帯を含めると13年間で14世帯63名が清河町の住民となっている。

清河自治振興会は定住対策の他にも、高齢者の送迎などを行う暮らしのサポート事業や、農業を好きな子どもを育てようと子どもを巻き込んだ朝市などにも取り組んでいた。さらには、合同会社「あおが」を設立し、どぶろく醸造、レストラン部の開業など新たな事業

へと裾野を広げている。

■三次市の取り組み

三次市まち・ゆめ基本条例は、まちづくりの基本理念や仕組みを定めていた。誰にでもわかりやすい優しい文体で書かれているのが特徴的である。この条例の作成にあたっては、大学教授や研究者などの有識者を含まない15人の三次市民が1年をかけ素案を練り上げていた。作成後も住民自治組織のまちづくりの取り組みをまとめた事例集の発行など条例制定後のフォローがしっかりと出来ていた。

また、住民自治組織それぞれの地域の特徴を生かしたビジョンづくりが行われていた。19の自治組織それぞれ



子ども向けまちづくり冊子

地域住民の手で計画を作成。興味深いのは、市役所職員に地域応援隊という制度があり、19地区自治組織ごとに5人の隊員（職員）が配置され、市民と行政の良きつなぎ役となつて協働の取り組みがされてきた。

このたびの視察を通して、地域には自立の精神が必要であり、行政には市民の力を引き出し、それによって考える力、行動する力、協力する力などにつながる地域づくりが必要だと学んだ。